

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：相模原市立東林保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：遠藤 美智子	定員（利用人数）： 180（174）名
所在地：〒252-0312 相模原市南区相南1-13-17	
TEL：042-742-2763	ホームページ： https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 1970年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：相模原市	
職員数	常勤職員： 34 非常勤職員 36名 名
専門職員	保育士 51 保育補助 4名 名
	看護師 4 事務補助 1名 名
	調理員 7 技能補助員 3名 名
施設・設備の概要	保育室 4 トイレ 8ヶ所 室
	調理室 1ヶ 事務室 1室 所
	園庭 有 屋外・他：プール（2階）テラス

③理念・基本方針

「全園児を全職員で」を合言葉に保育をしています

- ・一人一人を大切に、尊重する保育をめざします
- ・安心できる環境の中で、のびのびと過ごせる保育をめざします
- ・一人一人の要求や欲求に柔軟に応じられる保育をめざします
- ・クラスの枠を取り除き、保育士全員で保育の姿勢を持ちます
- ・その子によって必要だと思った時に、必要なだけかかわれるようにチームワークの良い保育をめざします

④施設・事業所の特徴的な取組

1.オープン保育
子どもの主体性と創造性を尊重し、一人一人の興味・関心に基づいて、主体的に活動できるようにすることを目的としています。子ども達が好きな遊びを選択し、十分に組みあわせるよう職員間で連携して保育をしています。

2.支援保育
支援保育コーディネーターを配置し、安心できる環境の中で子どもの健やかな成長と発達を保障し、子どもの状況に応じた支援を行っています。市内の他機関との連携も行いながら一人一人の個性を大切に保育をしています。

3.様々な人々との交流

オープン保育を通しての異年齢交流や近隣施設との交流、実習生や体験学習の受け入れを積極的に行い、様々な人との触れ合いの中で豊かな心を育てています。

4.地域の子育て支援

地域担当者（副園長と兼務）が中心となり、園児や地域親子との交流や育児相談、一時預り保育を行うなど地域支援に取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年6月3日（契約日）～ 令和5年3月27日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（平成24年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子ども主体のオープン保育が行われています

オープン保育でクラスごとの枠にとらわれず、子どもの思いを尊重し、子ども一人一人が好きな遊びを思い切り楽しめています。園庭で遊んでいる子どもたちに鈴を鳴らして保育室で遊ぶことができる案内をすると、教室で遊びたい子どもは自身で選択し室内遊びを楽しみます。保育士からの指示が少ないため、子どもたちは指示待ちをすることなく自身で考え、行動できる園生活となっています。

2)遊びの中から生活技術の習得ができるようにしています

食育係が中心となった保護者対象の食育アンケートより、スプーンからお箸への移行について「お箸をうまく使えない」「お箸に移行できたのにスプーンに戻ってしまった」などの保護者の困りごとや疑問を取り上げて、わかりやすくまとめたものを玄関ホールに掲示しています。指先を使った遊びは、これからお箸を使用する上でねらいを持った大切な遊びとなっていることが写真付きで紹介されています。

3)職員の職位や職種を超えた意見交換が活発に行われています

職員の話し合いで、検討手法「田の字ワーク」を取り入れています。取り組めたこと、取り組めなかったことを付箋に書き出して一枚の紙に貼ることで、各々の思いを理解し学び合える機会となっています。その過程で課題も見出しています。今年度はコロナ禍における行事の中止や縮小を経て、子どもの育ちに沿った行事のあり方を検討・見直しを行っています。職員会議では職位や職種を超えて意見交換しています。

4)災害時における地域との協力が期待されます

園の立地はハザードマップなどで確認していますが、職員への周知の徹底、浸水の備え、保育の継続のための対策を具体的に準備しておくことが期待されます。被災時における福祉的な支援を必要とする人々や地域住民を園で受け入れる体制はありますが、職員間での共有が十分でなく、地域住民への周知も十分ではありません。地域と園の相互の防災対策の取り組みが期待されます。

5)地域福祉向上のためのさらなる取り組みが期待されます

保護者の園見学時や社会福祉協議会部会などで地域の福祉ニーズを把握しています。地域担当職員を配置し、様々な地域事業を計画していますが、残念ながらコロナ禍により実行が難しい状況にあります。コロナ禍における交流方法や地域支援の活動方法を今一度検討し、地域交流、地域貢献に向けてのさらなる取り組みが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

受審の年に園長が替わり、新年度から改めて全職員で受審に向けての準備を進めるような形になりました。普段は保育について時間をかけて丁寧に話をすることがなかなかできませんが、今回の取り組みがあることでいろいろな角度から園の保育について振り返り、園の強みや課題を全職員で共有することができました。

内容評価基準の項目については担当チームを作り、話し合いを重ねて自己評価を行い、自分の考えを伝え他者の考えを聞きながら日々の保育の中で行っていることの意味や根拠を考えることができました。各項目についてチームの一人一人がアピールや説明ができるように分担したことで、職務経験年数に関わらず全職員が発言する機会を持てたことは良い経験となりました。実際の訪問調査時に園の取り組みに対して称賛され嬉しいお言葉をいただいたり、結果として園が思っているよりも高評価をいただいたりした項目については職員の自信に繋がりました。共通評価基準についても同様です。

今回の結果を今後の保育に反映し、さらなる保育の質向上と、よりよい保育サービスの提供ができるよう全職員で取り組んでいきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり